

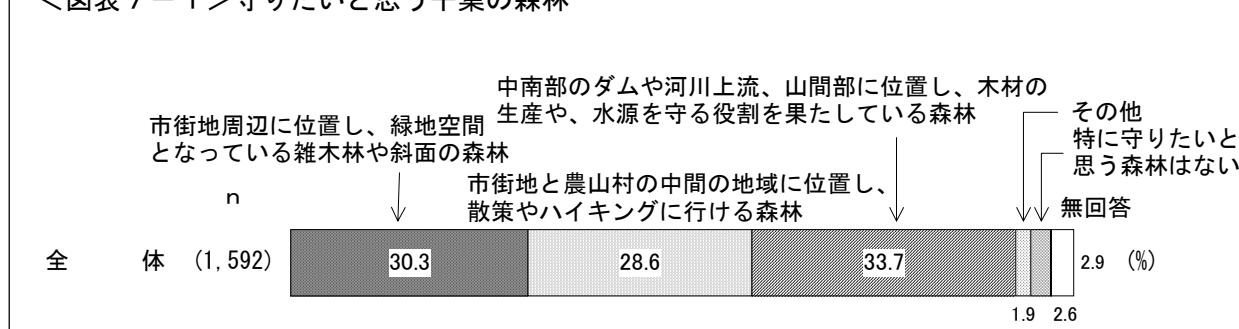
## 7 森林と里山に関する意識について

### (1) 守りたいと思う千葉の森林

◇「中南部ダムや河川上流、山間部に位置し木材生産や水源を守る森林」が3割台半ば

問 25 千葉県の森林は県土の約3分の1（全国では国土の2/3）ですが、1人当たりの森林面積は全国平均の約7分の1です。あなたが、守りたいと思う千葉の森林とはどのようなものですか。（○は1つ）

<図表7-1>守りたいと思う千葉の森林



守りたいと思う千葉の森林はどのようなものか聞いたところ、「中南部のダムや河川上流、山間部に位置し、木材の生産や、水源を守る役割を果たしている森林」（33.7%）が3割台半ばで、「市街地周辺に位置し、緑地空間となっている雑木林や斜面の森林」（30.3%）は3割、「市街地と農山村の中間の地域に位置し、散策やハイキングに行ける森林」（28.6%）は約3割となっている。守りたいと思う千葉の森林については意見が3つにほぼ分かれている。（図表7-1）

#### 【地域別】

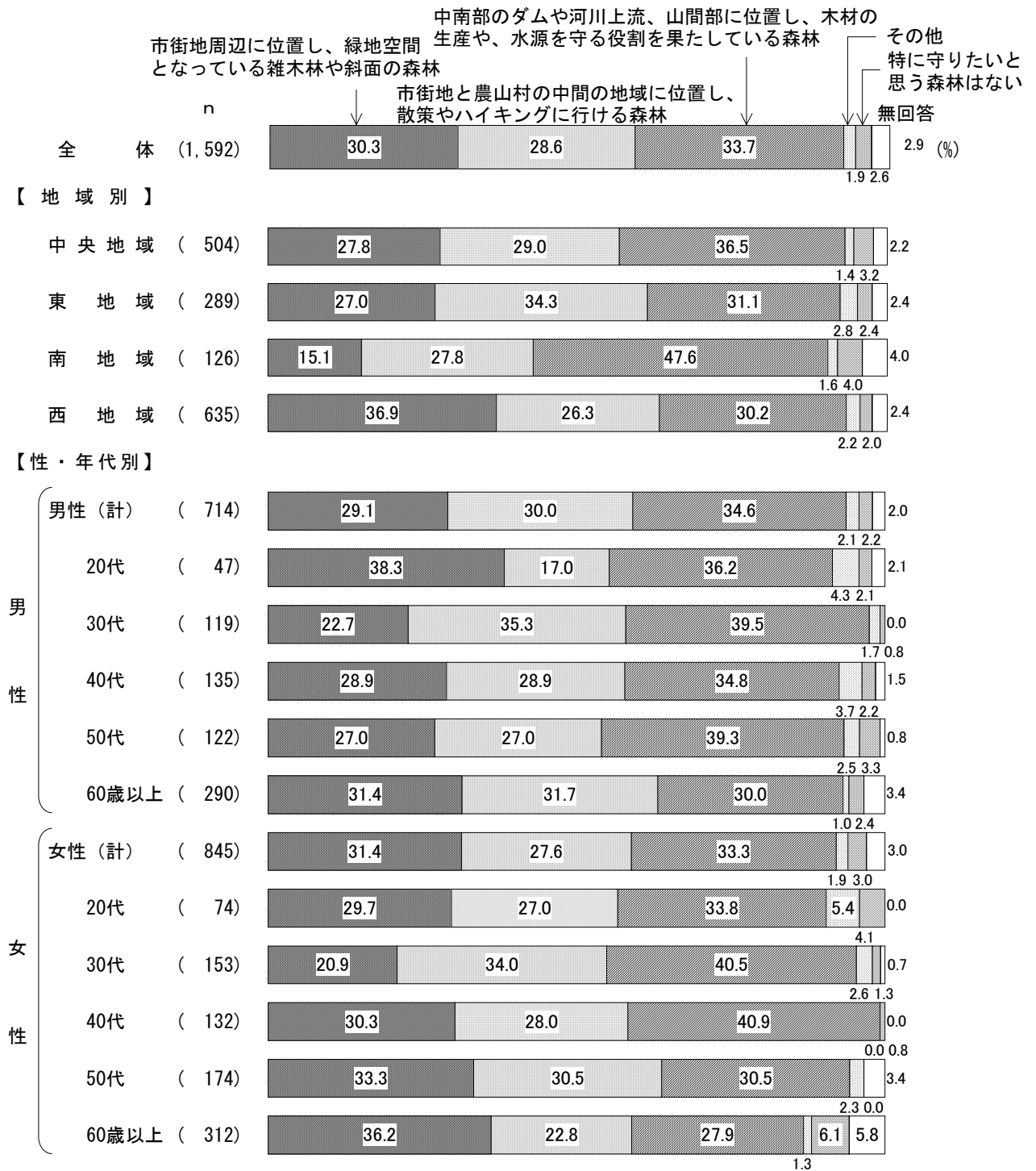
地域別でみると、「中南部のダムや河川上流、山間部に位置し、木材の生産や、水源を守る役割を果たしている森林」は“南地域”（47.6%）で約5割、「市街地周辺に位置し、緑地空間となっている雑木林や斜面の森林」は“西地域”（36.9%）で3割台半ばと、いずれも他の地域に比べかなり高くなっている。（図表7-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「中南部のダムや河川上流、山間部に位置し、木材の生産や、水源を守る役割を果たしている森林」は男性の30代（39.5%）と50代（39.3%）、女性の30代（40.5%）と40代（40.9%）で約4割となっている。「市街地周辺に位置し、緑地空間となっている雑木林や斜面の森林」は男性20代（38.3%）で約4割、「市街地と農山村の中間地域に位置し、散策やハイキングに行ける森林」は男女とも30代（男性35.3%、女性34.0%）で3割台半ばとなっている。

（図表7-2）

<図表7-2>守りたいと思う千葉の森林／地域別、性・年代別



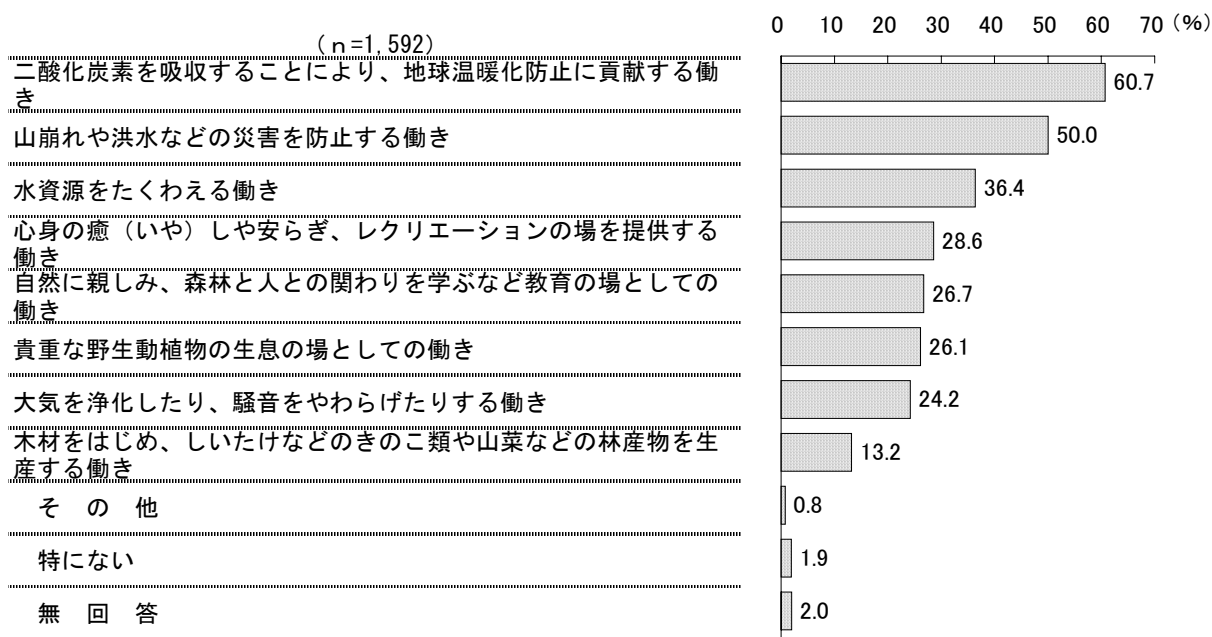
## (2) 千葉の森林が担うべき働き

◇「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」が6割

問 26 あなたは、千葉の森林について、どのような働きを特に担うべきだと思いますか。

(○は3つまで)

<図表 7-3> 千葉の森林が担うべき働き



千葉の森林について、どのような働きを特に担うべきだと思うかを3つまで選んでもらったところ、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」(60.7%)が6割で最も高くなっている。これに「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」(50.0%)、「水資源をたくわえる働き」(36.4%)、「心身の癒しや安らぎ、レクリエーションの場を提供する働き」(28.6%)が続く。(図表 7-3)

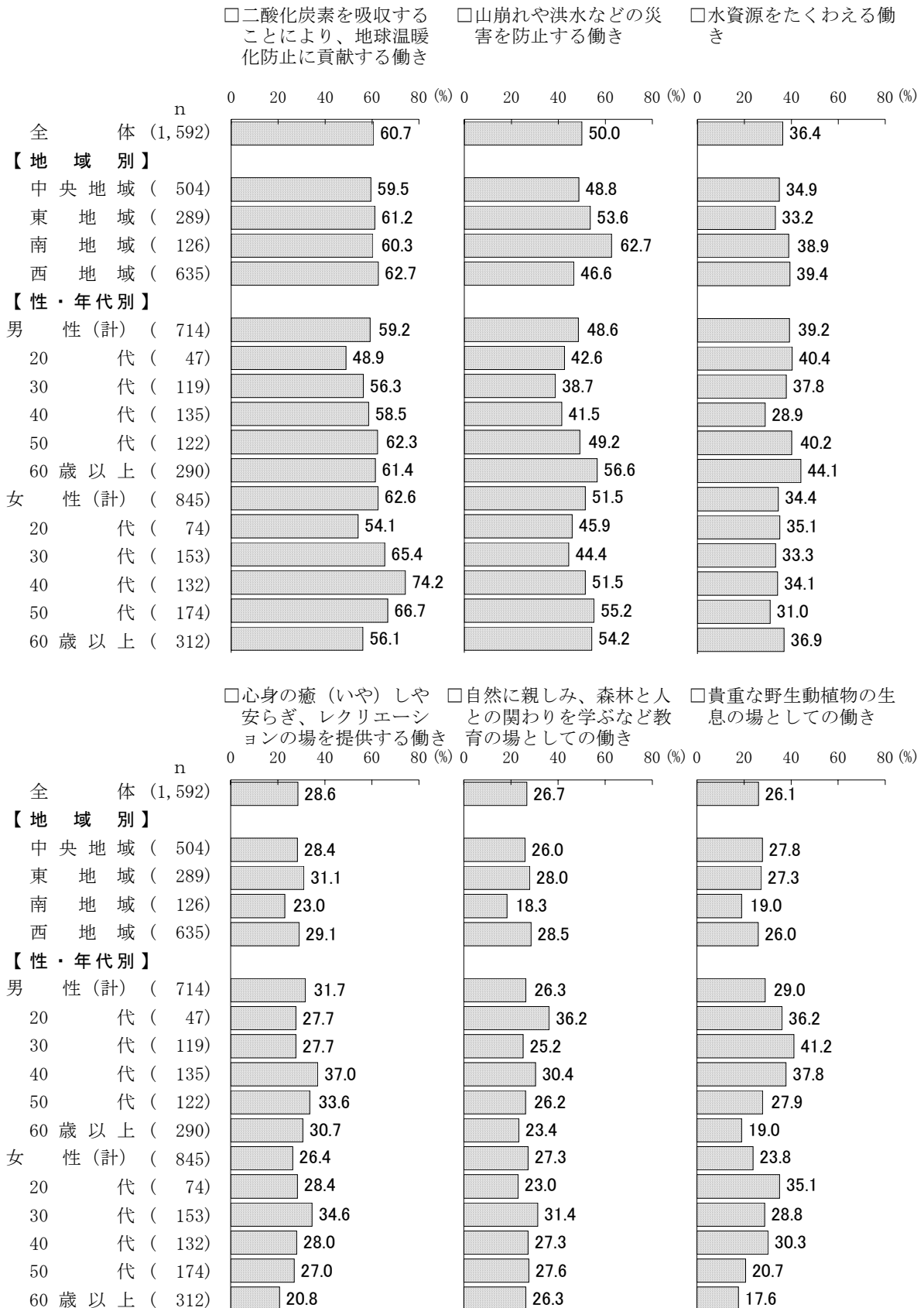
### 【地域別】

地域別でみると、「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」は“南地域”(62.7%)で6割を超え、他の地域に比べかなり高くなっている。(図表 7-4)

### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「二酸化炭素を吸収することにより、地球温暖化防止に貢献する働き」は女性 40代(74.2%)で7割台半ばと高くなっている。「水資源をたくわえる働き」は男性 60歳以上(44.1%)で4割台半ば、「心身の癒しや安らぎ、レクリエーションの場を提供する働き」は男性 40代(37.0%)で約4割となっている。「貴重な野生動植物の生息の場としての働き」は男性 30代(41.2%)で4割を超えて高くなっている。(図表 7-4)

<図表7-4>千葉の森林が担うべき働き／地域別、性・年代別（上位6項目）

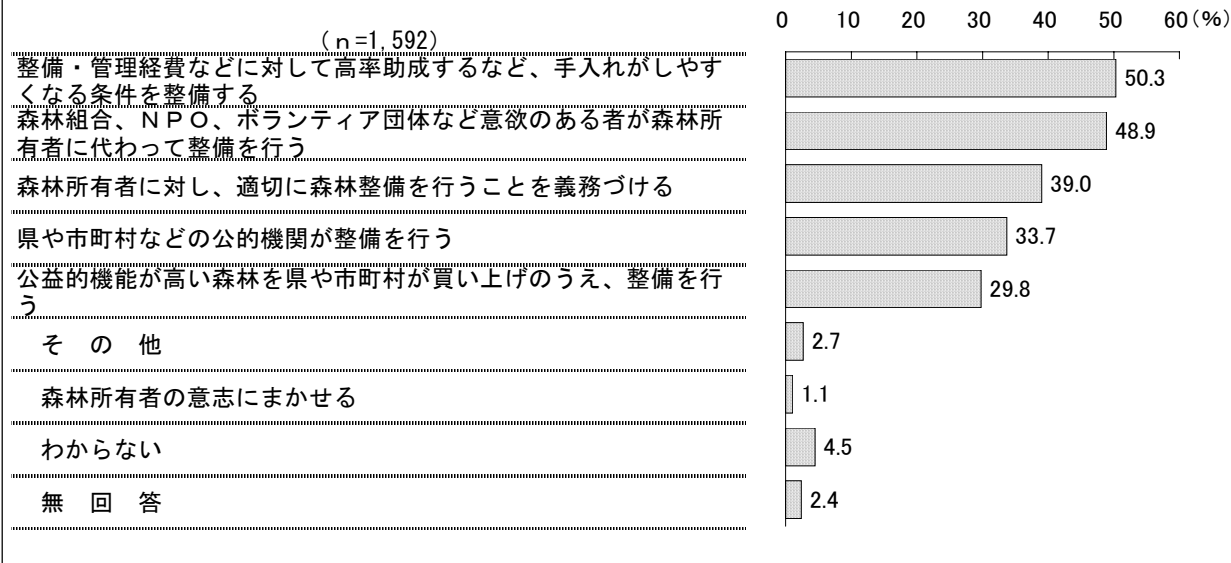


### (3) これからの森林の整備方法

◇「整備・管理経費などに対して高率助成するなど、手入れがしやすくなる条件を整備する」が5割

問 27 近年、我が国では林業の不振などで、森林の荒廃が心配されていますが、千葉県でも同じ状況であり、適正な手入れがされない森林が増えています。あなたは、これからの千葉の森林については、どのような方法で整備すべきだと思いますか。（○は3つまで）

<図表 7-5> これからの森林の整備方法



これからの千葉の森林は、どのような方法で整備すべきだと思うかを3つまで選んでもらったところ、「整備・管理経費などに対して高率助成するなど、手入れがしやすくなる条件を整備する」（50.3%）が5割で最も高くなっている。これに「森林組合、NPO、ボランティア団体など意欲のある者が森林所有者に代わって整備を行う」（48.9%）、「森林所有者に対し、適切に森林整備を行うことを義務づける」（39.0%）、「県や市町村などの公的機関が整備を行う」（33.7%）、「公益的機能が高い森林を県や市町村が買い上げのうえ、整備を行う」（29.8%）が続く。（図表 7-5）

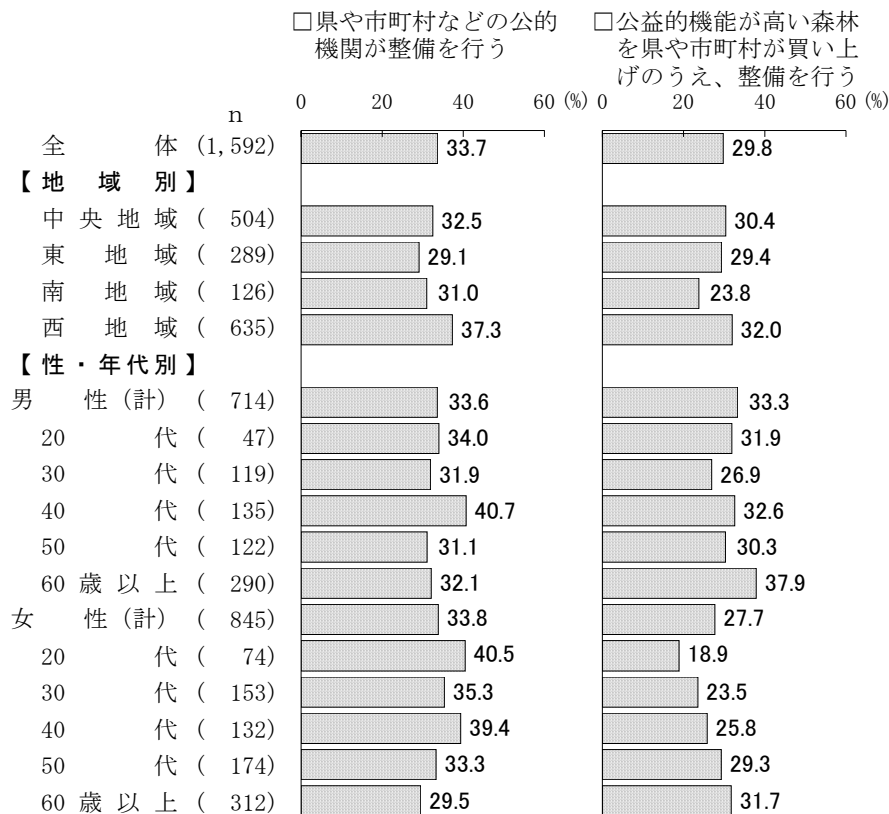
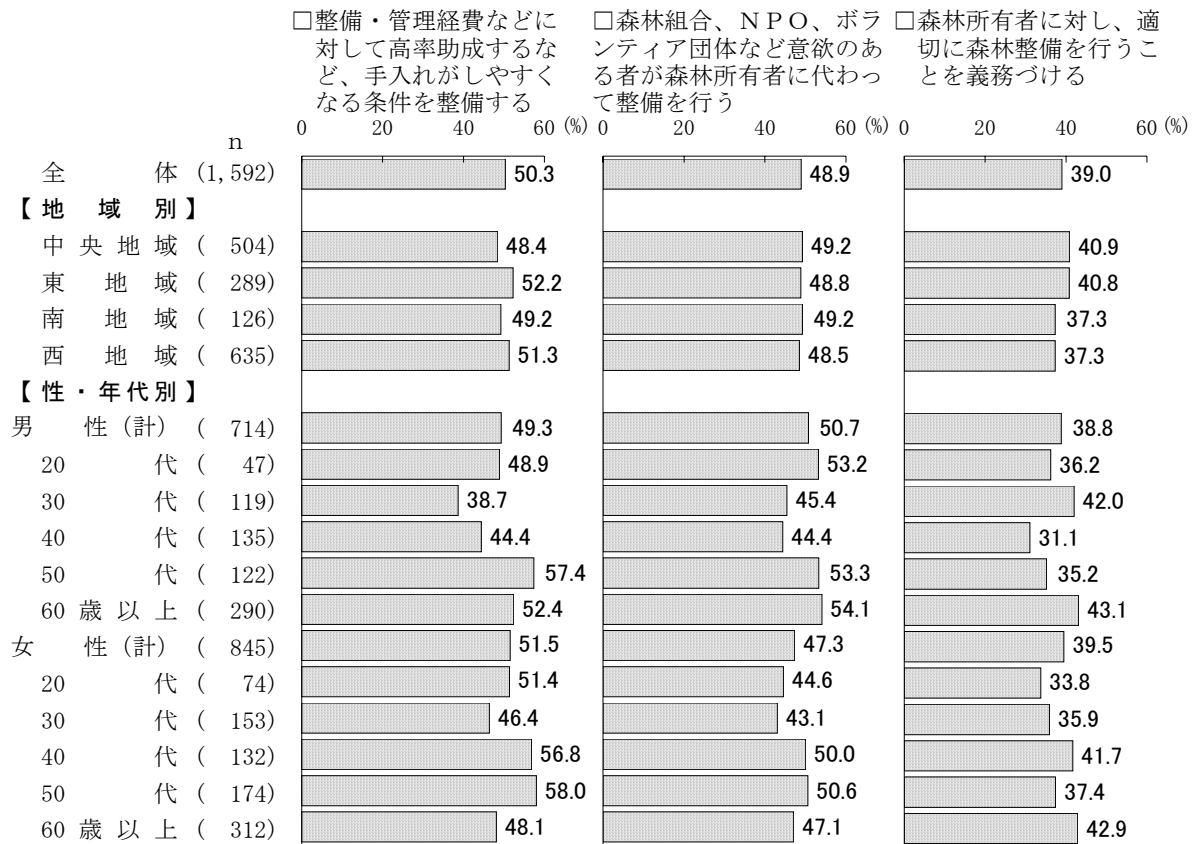
#### 【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。（図表 7-6）

#### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「整備・管理経費などに対して高率助成するなど、手入れがしやすくなる条件を整備する」は男女とも50代（男性57.4%、女性58.0%）で約6割となっている。「県や市町村などの公的機関が整備を行う」は男性40代（40.7%）と女性20代（40.5%）で4割となっている。「公益的機能が高い森林を県や市町村が買い上げのうえ、整備を行う」は男性60歳以上（37.9%）で約4割となっている。（図表 7-6）

<図表7-6>これからの森林の整備方法／地域別、性・年代別（上位5項目）

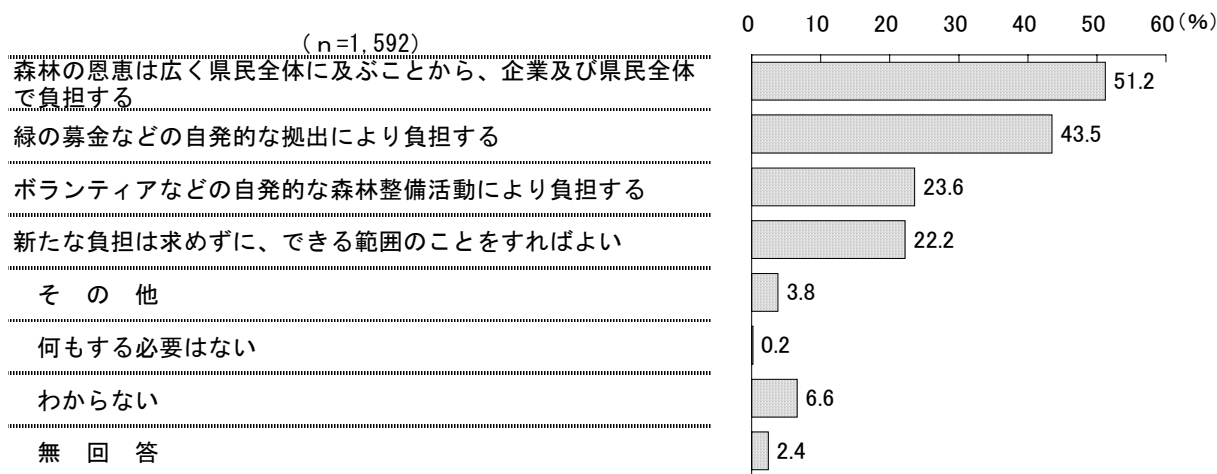


#### (4) 森林整備のために必要な費用負担のあり方

◇「森林の恩恵は広く県民全体に及ぶことから、企業及び県民全体で負担する」が5割を超える

問 28 「地球温暖化防止」(※参照)のために、千葉県においてもこれまで以上に森林を整備していく必要があります。あなたは、千葉の森林の整備を推進するのに必要となる費用に対する負担はどうあるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

<図表7-7>森林整備のために必要な費用負担のあり方



※「地球温暖化防止と森林吸収源対策」について

地球温暖化を防ぐために、1997年に二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を削減していくための国際的な取り決めである「京都議定書」が採択されました。この京都議定書において、日本は6%の削減目標を約束していますが、そのうちの3.8%を森林の二酸化炭素吸収量で確保(削減)することとしています。また、森林における削減については、新たな植林地や整備された健全な森林のみが吸収源としてカウントすることができます。この森林吸収量確保の達成のため、今後も一層の森林の整備・保全などの対策を推進し、必要な面積を確保していく必要があります。

千葉の森林の整備を推進するのに必要となる費用の負担はどうあるべきだと思うかを2つまで選んでもらったところ、「森林の恩恵は広く県民全体に及ぶことから、企業及び県民全体で負担する」(51.2%)が5割を超えて最も高い。これに「緑の募金などの自発的な拠出により負担する」(43.5%)、「ボランティアなどの自発的な森林整備活動により負担する」(23.6%)、「新たな負担は求めずに、できる範囲のことをすればよい」(22.2%)が続く。(図表7-7)

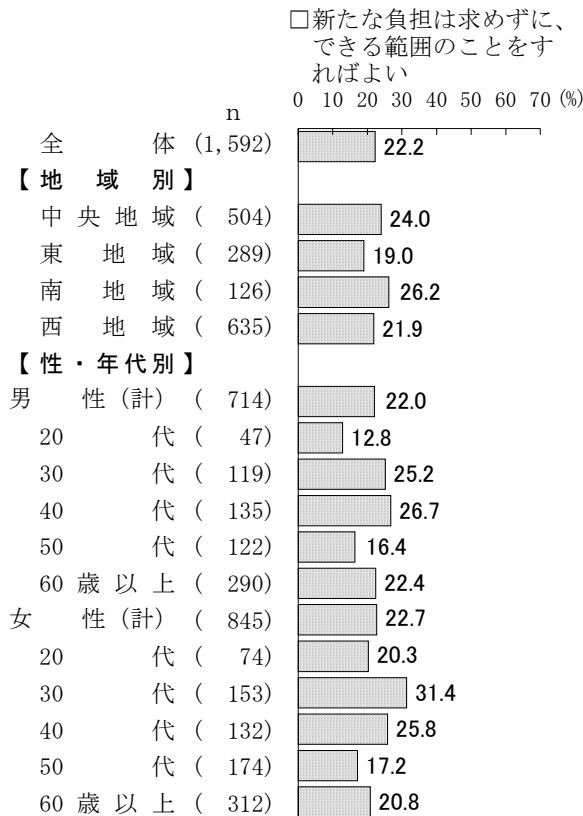
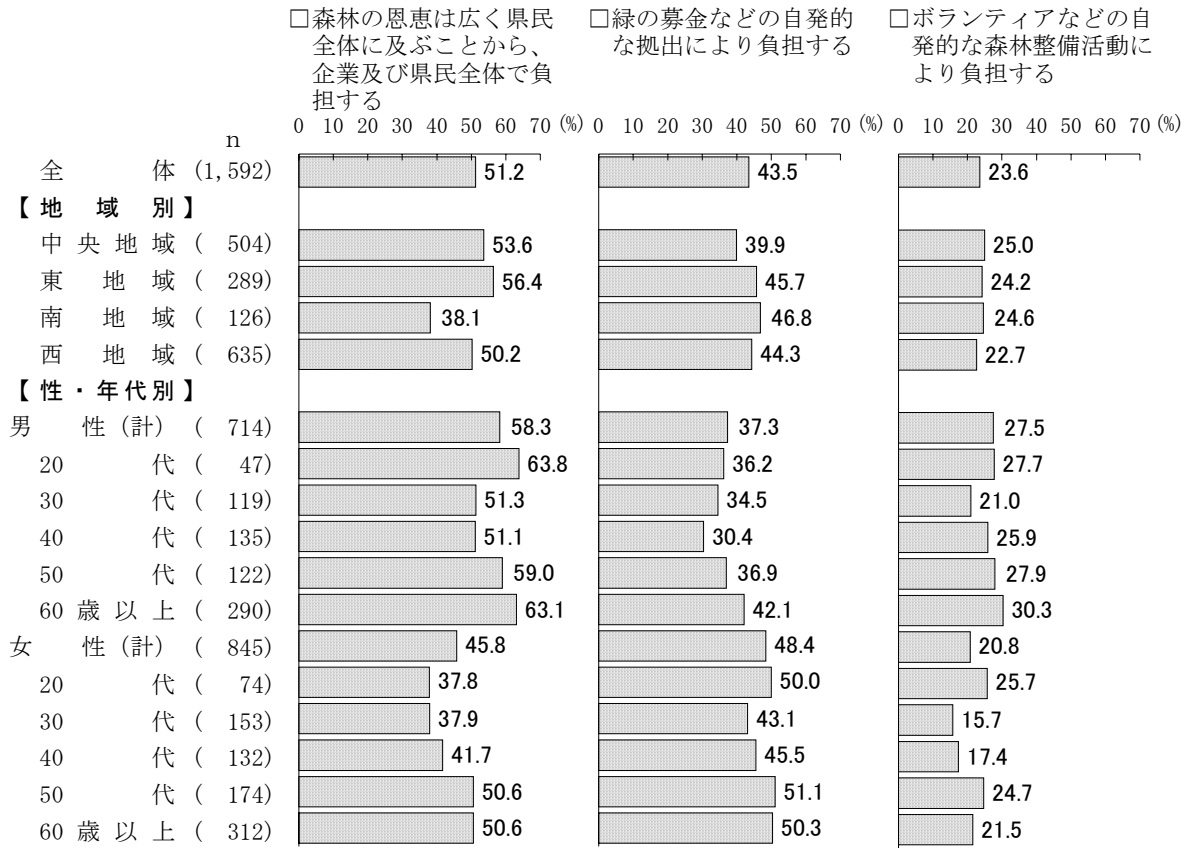
【地域別】

地域別でみると、「森林の恩恵は広く県民全体に及ぶことから、企業及び県民全体で負担する」は“南地域”(38.1%)では約4割と、他の地域に比べて低くなっている。(図表7-8)

【性・年代別】

性・年代別でみると、「森林の恩恵は広く県民全体に及ぶことから、企業及び県民全体で負担する」は男性の方が女性より約13ポイント高く、特に男性20代(63.8%)と男性60歳以上(63.1%)で6割台半ばとなっている。「緑の募金などの自発的な拠出により負担する」は女性の方が男性より約11ポイント高い。「新たな負担は求めずに、できる範囲のことをすればよい」は女性30代(31.4%)で3割を超えている。(図表7-8)

<図表7-8> 森林整備のために必要な費用負担のあり方／地域別、性・年代別（上位4項目）



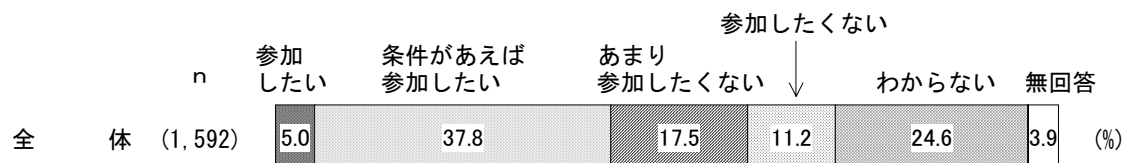


## (5) 里山の保全、整備の活動への参加意向

◇『参加したい』は4割を超える

問 29 里近くの森林・谷津田・水辺などが一体となった「里山」は、開発によって減少したり、所有者の管理が行き届かないで荒れているのが現状です。あなたは「里山」の保全、整備の活動に参加したいと思いますか。（○は1つ）

<図表7-9>里山の保全、整備の活動への参加意向



里山の保全、整備の活動に参加したいか聞いたところ、「参加したい」（5.0%）と「条件があえば参加したい」（37.8%）の2つを合わせた『参加したい』（42.8%）は4割を超えている。「あまり参加したくない」（17.5%）と「参加したくない」（11.2%）の2つを合わせた『参加したくない』（28.7%）は約3割である。（図表7-9）

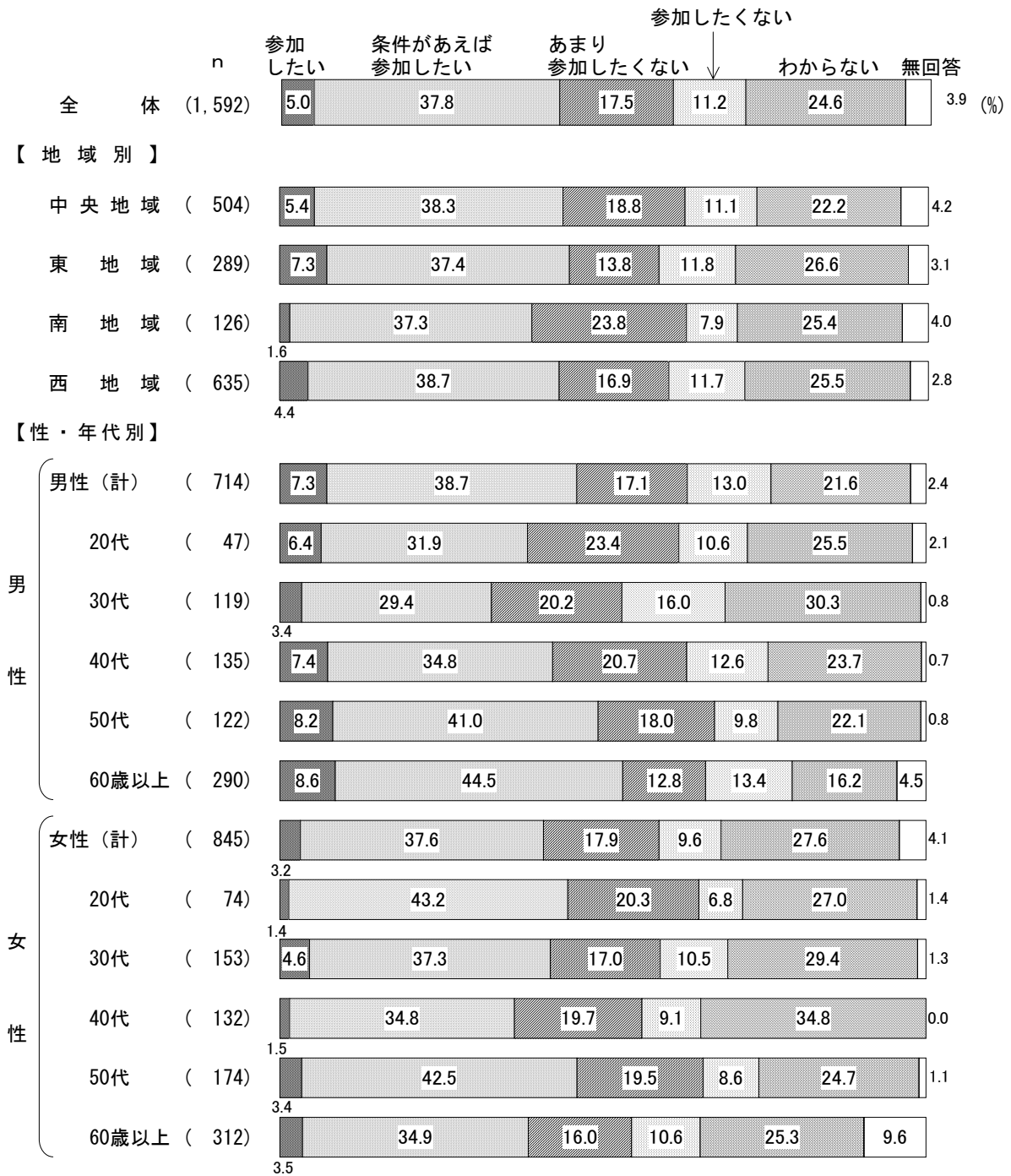
### 【地域別】

地域による特に大きな違いはみられない。（図表7-10）

### 【性・年代別】

性・年代別でみると、『参加したい』は男性の50代以上の年代で高く、男性60歳以上（53.1%）、男性50代（49.2%）となっている。『参加したくない』は男性30代（36.2%）で3割台半ばと高くなっている。（図表7-10）

<図表7-10> 里山の保全、整備の活動への参加意向／地域別、性・年代別



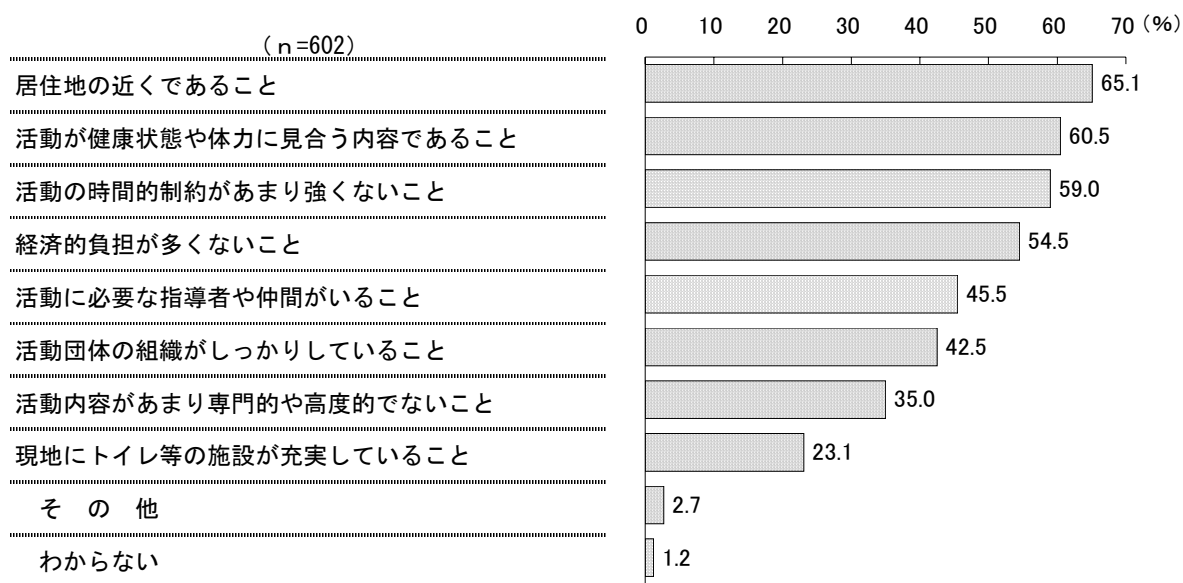
## (5-1) 里山の保全、整備の活動に参加するための条件

◇「居住地の近くであること」が6割台半ば

(問29で「2 条件があえば参加したい」と答えた方に)

問29-1 あなたは、どのような条件(環境)が整えられれば、活動に参加しようと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表7-11>里山の保全、整備の活動に参加するための条件



里山の保全、整備の活動に「条件があえば参加したい」と答えた602人を対象に、どのような条件(環境)が整えられれば参加しようと思うかをいくつか選んでもらったところ、「居住地の近くであること」(65.1%)が6割台半ばで最も高くなっている。これに「活動が健康状態や体力に見合う内容であること」(60.5%)、「活動の時間的制約があまり強くないこと」(59.0%)、「経済的負担が多くないこと」(54.5%)、「活動に必要な指導者や仲間がいること」(45.5%)が続く。(図表7-11)

### 【地域別】

地域別でみると、「居住地の近くであること」は“東地域”(77.8%)で約8割と高く、「経済的負担が多くないこと」は“南地域”(40.4%)で他の地域に比べて割合が低くなっている。

(図表7-12)

### 【性・年代別】

性・年代別でみると、「居住地の近くであること」は男女とも20代で4割と他の年代に比べて低くなっている。「活動が健康状態や体力に見合う内容であること」は高い年代ほど割合が高くなっている。「経済的負担が多くないこと」は男性の20代、40代、50代、女性の30代と40代で6割台半ばとなっている。「活動に必要な指導者や仲間がいること」は女性の20代(59.4%)と40代(60.9%)で6割前後となっている。(図表7-12)

<図表7-12> 里山の保全、整備の活動に参加するための条件／地域別、性・年代別（上位6項目）

